

平成 22 年度各種委員会報告

I. 学術集会

1. 学術委員会

委員長 杉 原 健 一

本委員会では、主に定期学術集会のプログラムについて検討している。

第 111 回の特別企画や上級演題のテーマについては、本委員会でも審議の上、決定した。来年の第 112 回のプログラムについても、継続的に扱う特別企画や分野別のバランスを考慮した上級演題を検討している。

II. 教育

2. 教育委員会

委員長 上 本 伸 二

1. 卒後教育セミナーについて（資料1）

- 1) 第77回は「リンパ節郭清の昔と今」のテーマで昨春の第110回定期学術集会に並行して、中尾昭公前会頭のお世話で名古屋市にて開催した（参加者1,208名）。
- 2) 第78回は「匠の標準手術」のテーマで昨秋の第72回日本臨床外科学会総会の小西敏郎前会長にお世話いただき横浜市にて開催した（参加者707名）。
- 3) 平成23年度の実施計画としては、第79回を「胸腹部の低侵襲（内視鏡）手術の現状」のテーマで5月28日に資料1の如く、名川弘一会頭のお世話で開催する。
- 4) 第80回は「外傷外科」のテーマで今秋の第73回日本臨床外科学会総会の青木達哉会長にお世話いただき開催する予定である。

（資料1）

第79回卒後教育セミナー（平成23年度春季）

日 時：平成23年5月28日（土）14:00～17:30

（第111回日本外科学会定期学術集会3日目）

場 所：東京国際フォーラム 第1会場

世話人：名川 弘一（第111回日本外科学会定期学術集会会頭、労働者健康福祉機構理事長）

企 画：吉野 一郎（日本外科学会教育委員会、千葉大学胸部外科）

テーマ：胸腹部の低侵襲（内視鏡）手術の現状

1. 心臓弁膜症の手術

司会：三重大学胸部心臓血管外科 新保 秀人

講師：大阪大学心臓血管外科 澤 芳樹

2. 肺区域切除

司会：香川大学呼吸器・乳腺内分泌外科 横見瀬裕保

講師：山形大学第二外科 大泉 弘幸

3. 乳腺の切除

司会：熊本大学乳腺内分泌外科 岩瀬 弘敬

講師：広島大学原爆医学研究所外科 尾崎 慎治

4. 噴門形成術

司会：大阪大学小児外科 福澤 正洋

講師：東京大学小児外科 岩中 督

5. 食道亜全摘術

司会：NTT 東日本関東病院外科 小西 敏郎

講師：東京医科歯科大学消化器外科 河野 辰幸

6. 胃切除（全摘）

司会：大分大学第一外科 北野 正剛

講師：九州大学臨床腫瘍外科 永井 英司

7. 低位前方切除術

司会：東京女子医科大学消化器外科 亀岡 信悟

講師：京都大学消化管外科 坂井 義治

8. 肝切除

司会：名古屋大学腫瘍外科 椰野 正人

講師：岩手医科大学外科 若林 剛

卒後教育セミナーは、本学会外科専門医制度規則施行規定により指導医の選定（春季は定期学術集會に参加しなかった場合のみ）及び更新、外科専門医の更新、認定登録医の暫定登録及び更新の際の研究実績に加算することができる旨、周知方お願いしたい。

2. 映像による私の手術手技—ビデオライブラリーについて（資料2, 3）

平成23年度の「映像による私の手術手技」は資料2のように決定した。また、平成20年度から標準手術シリーズと最新手術シリーズに分けることとし、標準手術シリーズは従来通り5名を選定、最新手術シリーズは学術集會のビデオ演題から10演題程度を選定することとした。第110回定期学術集會のビデオ演題からは資料3のように2演題を選定し、特別ビデオセッションを収録した。制作補助費は標準手術シリーズが一人30万円、最新手術シリーズは再編集や音声入れなども考慮して一人10万円の補助としている。

昨年は、全作品（201本）のDVDを1本5,000円で頒布し、421本の申込があった。

（資料2）

映像による私の手術手技

標準手術シリーズ

1. 肝静脈再建を伴う肝切除術

東京大学肝胆臓外科 國土 典宏

2. 部分肺静脈還流異常症修復手術の既往があり巨大肺動脈を呈した肺高血圧症に対する脳死両側肺移植手術

東北大学加齢医学研究所呼吸器外科 近藤 丘

3. L-incision法による拡大弓部全置換術

九州大学循環器外科 富永 隆治

4. 進行肝内部胆管癌に対する肝切除

名古屋大学腫瘍外科 椰野 正人

5. 下部進行直腸癌に対する手術の工夫と標準化

藤田保健衛生大学消化器外科 前田耕太郎

（資料3）

最新手術シリーズ

1. 臍局所切除術後の臍癌に対する予防的内視鏡的臍管ドレナージ

杏林大学外科 杉山 政則

2. 肝シミュレーションソフトを用いた合理的な肝切除—根治性と安全性を確保する治療戦略—

都立墨東病院外科 脊山 泰治

第 110 回定期学術集会特別ビデオセッション

3. 食道・胃・大腸 編
4. 肝胆膵・移植 編
5. 心臓・血管・肺 編
6. 乳腺・内分泌・小児 編

3. 生涯教育セミナーについて

- 1) 平成 22 年度は「外科と化学療法」のテーマで開催した。全国 7 地区で合計 581 名が受講され順調に実施された。
- 2) 平成 23 年度のテーマは「機能温存手術の適応と限界」で開催される。

4. 病院間医師交流による若手外科医師の教育プロジェクトについて（資料 4, 5, 6）

若手外科医師の手術を含めた外科診療能力の向上のためには、現在指導を受けている施設での修練だけに満足することなく、複数の施設での外科修練を受けることが、広い視野で外科学を学ぶこと、最前線の救急外科医療を学ぶこと、専門性の高い高度医療を学ぶことなど若手外科医師の教育に大きく貢献出来ると考えられる。

本プロジェクトは外科専門医を取得した若手医師が、参加を了承された本会指定・関連施設（約 500 施設）の教育コースを選び申込を行っていただくようになっている。現在、登録のある教育コース件数の一覧は資料 4 のとおりである。

実際に 3～6 ヶ月程度の修練をした場合には、資料 5, 6 のように交通費や宿泊費の一部を本会が負担するが、参加施設の一覧や詳細はホームページをご覧ください。

（資料 4）

教育コース件数一覧

1. 地域外科教育コース	189 件
2. 高齢者外科教育コース	109 件
3. 内視鏡外科教育コース	72 件
4. 各種専門医取得コース	47 件
5. 消化器外科教育コース	89 件
6. 胸部外科教育コース	34 件
7. 乳癌・乳腺内分泌・甲状腺外科教育コース	113 件
8. 肝胆膵外科教育コース	56 件
9. 呼吸器・肺外科教育コース	70 件
10. 食道・胃外科教育コース	20 件
11. 心臓血管外科教育コース	54 件
12. 小児外科教育コース	24 件
13. 大腸・肛門外科教育コース	30 件
14. その他（一般外科・癌治療・移植・ヘルニア・緩和・腎臓外科など）	117 件
15. 救急・外傷外科教育コース	50 件

(資料5)

交通費

- 2万円 中部⇔近畿
- 4万円 関東⇔東北・中部・近畿 中四国⇔中部・近畿・九州
- 6万円 東北⇔北海道・中部・近畿
- 8万円 北海道⇔関東・中部・近畿 中四国⇔東北・関東 九州⇔中部・近畿・関東
- 10万円 北海道⇔中四国・九州 東北⇔九州

(資料6)

宿泊費

宿泊費の補助 (1ヶ月あたり)

- 1万円 宿泊施設あり
- 2万円 宿泊施設なし

5. 外科専門医修練カリキュラムの到達目標について

専門医を目指す若い会員が外科専門医修練カリキュラムにある腫瘍学や栄養・代謝学などの「到達目標」を理解出来るように、各学会のセミナーを低料金で参加できるような検討をしたが、まずは本会卒後教育セミナーのテーマの幅を広げ対応していくこととなった。

6. ATOM コース (Advanced Trauma Operative Management) について

ATOM コースを本会の事業として活動してほしい旨の依頼があり、まずは会員への周知をホームページで協力することとし、応募状況などから今後の検討課題としている。

3. 専門医制度委員会

委員長 柳野 正人

1. 本年1月からの National Clinical Database (NCD) の事業開始に伴い、既存の本会の手術症例登録システムは原則として本年一杯でクローズすることとし(それまでは本会と NCD の双方に手術症例を登録してもらう)、以下の周知を徹底することとした。

「National Clinical Database (NCD) の事業が開始されましたので、平成23年1月1日付以降の手術症例については、外科専門医取得のための病歴抄録の登録と同時に、必ず NCD にも登録を行ってください。

平成24年以降の手術症例からは本会の病歴抄録の登録を終了し、NCD への登録に一本化して、外科専門医取得のために必要なデータは NCD から抽出する予定です。したがって、本会と NCD の双方に並行して登録するのは平成23年12月31日までの手術症例となります。

なお、平成22年12月31日までにを行った手術症例については、NCD に登録することができませんので、従来どおり、速やかに本会に病歴抄録として登録してください。

NCD 登録方法などの詳細については、NCD のホームページなどを参照してください。

以上をまとめると、次のようになります。

○平成22年12月31日までの手術症例

本会の病歴抄録として速やかに登録してください。

平成23年12月31日以降は登録できなくなる予定です。

○平成23年1月1日から12月31日までの手術症例

本会の病歴抄録と、NCD の双方に登録してください。

○平成24年1月1日からの手術症例

NCD のみの登録となる予定です。」

2. NCD の対応を検討する過程で、「外科専門医修練カリキュラム」の運用において変更すべき点が見付かった。そこで、外科専門医の門戸を広げて資格を取得し易くするというコンセプトに基づき、以下のとおり到達目標3を中心に改定を行った(新しい「外科専門医修練カリキュラム」は巻末に掲載)。

○基本的事項ならびに関連事項

外科専門医制度の移行措置・特例措置が終了し、新たに本会認定登録医の資格がスタートしたので、「2) 移行措置・特例措置について」の項を、「2) 日本外科学会認定登録医について」の項に変更した。

○到達目標3

「助手」の定義を「手術の大部分を第1助手～第3助手として手術に参加した者」から、「手術の大部分に参加した者」に変更した。

また、「指導」の定義と、「指導的助手」の解釈を削除した。

○到達目標3

「『切除と再建』にそれぞれ長時間(各5時間以上)を要する手術は、それぞれを1例としてカウント

できる」旨の例外規定を削除し、どれだけ長時間を要した手術であっても1例としかカウントできないこととした。

また、「異なる臓器の同時手術は、それぞれを1例としてカウントできる」旨の例外規定を、「異なる臓器の異なる疾患に対する同時手術は、それぞれを1例としてカウントできる」旨に変更した。

(⇒Q&A集も変更)

○到達目標 3—手術経験症例数についての基本解釈

「『1件の疾患』は『1手術症例』と解釈する」旨を削除し、あくまでも疾患単位でカウントすることとした。

○到達目標 3—手術経験症例数についての基本解釈

「異なる臓器」の定義について、「①消化管および腹部内臓」の領域に限っては、「a. 食道 b. 胃・十二指腸 c. 小腸・虫垂・結腸 d. 直腸・肛門 e. 肝臓・胆道・膵臓 f. 脾臓 g. 腹腔・腹膜・後腹膜 h. 臓器移植」までが異なる臓器として解釈することとした。

○到達目標 3—手術手技一覧

「開胸・閉胸」「開腹・閉腹」は一切認めないこととした。

3. 外科関連専門医制度委員会の合意事項やNCD対応策などを反映させるため、定款委員会から上程された外科専門医制度規則および同施行規定の変更を議決した。

4. 他の業務は次のとおりである。

①前例に倣って各種の問合せに対応した。

②日本がん治療認定医機構の関連学会連絡委員会や、日本消化器外科学会の消化器外科関連専門医制度協議会（仮称）などに参加した。

1) 外科関連専門医制度委員会

委員長 兼 松 隆 之

平成22年5月31日に第46回、11月9日に第47回総会を開催した。

1. 委員長に本会の兼松監事が再任された（任期2年）。
2. 一般社団法人 National Clinical Database (NCD) の設立に伴い、手術症例データベースワーキンググループを発展的に解消した。
3. 社団法人日本専門医制評価・認定機構が提示した「専門医制度の基本設計(案)」の内容を原則として支持し、今後の検討の進捗を注視しながら連携を図ることとした。
4. 本会が「外科専門医修練カリキュラム」を改定することや、社団法人日本専門医制評価・認定機構の施設調査に協力することについて、了承した。

2) 社団法人日本専門医制評価・認定機構

副理事長 里 見 進

【社員総会報告】

1. 平成22年度第1回（平成22年5月6日）
・平成21年度事業・決算報告を承認。

- ・任期満了に伴い、12名の理事と3名の監事を選挙により選任。
⇒理事会で池田康夫理事（早稲田大学/内科・血液）を理事長に選出（再任）。
- ・厚生労働省の外形基準に替わる新しい枠組みとして、「専門医制度の基本設計」の方向性を承認。
- ・基本領域の認定更新のためのヒアリング実施中。

2. 平成22年度第2回（平成23年2月21日）

- ・平成23年度事業計画・予算書を承認。
- ・新公益法人制度に伴い、一般社団法人に移行する方針を承認。
- ・二階建制の整備を行うため、基本領域とサブスペシャリティ領域の関係に関する調査を実施中。
- ・基本領域の研修施設調査を実施中。
- ・概報を発行。
- ・第三者中立的機関（日本専門医機構；仮称）の設立に向けて、日本医師会や日本医学会などと検討中。

【平成23年度事業計画】

- 1) 社員総会を開催する
- 2) 協議委員会を開催する
- 3) 理事会を開催する
- 4) 総務・財務委員会、広報委員会、専門医制度評価委員会、専門医の広告に関する委員会、研修施設委員会を開催する
- 5) 法人制度改革に基づく新法人への移行を検討する
- 6) 第三者機関検討委員会活動を支援する
- 7) 事務連絡会議を開催する
- 8) 厚生労働省、日本医師会、日本医学会ならびに各種団体との連携を計る
- 9) 専門医・専門医制度に関する調査を実施する
- 10) 専門医罰則規定の統一基準を作成する
- 11) 専門医制度推進支援事業を実施する
- 12) 専門医制度整備指針を発行する
- 13) 日本専門医概報を発行する
- 14) 日本専門医便覧刊行の準備を行う
- 15) 機構ニュースを発行する
- 16) ホームページの充実をはかり、広く情報の公開を行う
- 17) 新規加盟希望学会の入社認定作業を行う
- 18) 寄附金の募集を行う
- 19) 専門医フォーラムを開催する
- 20) その他必要な事業を行う

【その他】

平成22年11月28日に第2回市民健康フォーラムが開催された（於：東京国際フォーラム）。厚生労働省の助成を受けて、専門医制度推進支援事業を実施した。

【分担金】

平成22年度分の本会分担金は397万2,000円であった。平成23年度分は415万1,500円である（いずれも会費20万円を含む）。

4. 専門医認定委員会・予備試験委員会

委員長 榑野 正人

1. 平成 22 年度予備試験（筆記試験）について

第 5 回目の外科専門医予備試験（筆記試験）を施行した。申請者は 1,110 名であったが、このうち 18 名が期日までに所定の手続きを完了しなかったため、受験の意思がないものと見做した。したがって、1,092 名を対象として、8 月 22 日に「東京ベイホテル東急」で予備試験（筆記試験）を実施したところ、実際は 1,084 名が受験した（欠席者は 8 名）。

9 月 7 日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果（外科専門医制度規則施行規定第 10 条により、公開しない）、876 名を合格と判定した（合格率：80.8%，合格最低正答率：67.7%）。

なお、正答率が 30% 未満であり、かつ識別指数が 0.1 未満（正答率 22.6%，識別指数 0.06）となった 1 問を不適切問題としたが、今回から当該不適切問題に正解した場合は採点から除外せずに正答として扱い、不正解の場合のみ除外することとして、判定を行った。

合格者氏名は、申請者数、受験者数、不合格者数、合格率、および今回出題した問題のうちの代表的な数問（各分野から 1 問ずつ）とともに雑誌第 111 巻第 6 号に公表した。

出題した問題は試験問題検討委員会が作成したものの中から本委員会が選定し、承認したものである。

2. 平成 22 年度認定試験（面接試験）について

第 4 回目の外科専門医認定試験（面接試験）を施行した。申請者は 819 名であったが、このうち 3 名が期日までに所定の手続きを完了しなかったため、受験の意思がないものと見做した。したがって、816 名を対象として、11 月 7 日に「京王プラザホテル」で認定試験（面接試験）を実施したところ、実際は 814 名が受験した（欠席者は 2 名）。

11 月 16 日付文書で持ち回り委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果（外科専門医制度規則施行規定第 19 条第 1 項により、公開しない）、814 名全員を合格と判定した。合格者氏名は、申請者数、受験者数とともに雑誌第 112 巻第 1 号に公表した。

本年も事前に無作為に抽出した 8 名を対象に現地調査を行ったところ、調査前に対象者 1 名より受験辞退の申し出があり、確認の上で辞退を認めたが（欠席扱い）、それ以外はすべて問題がなかった。

3. 平成 22 年度外科専門医特例認定業務について

本年度は合計 369 名からの申請があったが、そのうち 1 名から申請取り下げの申し出があり、8 名がオンラインによる申請登録は行ったが、申請書そのものを提出しなかった。したがって、審査対象者は合計 360 名であった。

9 月 7 日の委員会で審議を行った結果、360 名を全員を外科専門医として認定した。本年度合格者氏名は、雑誌第 111 巻第 6 号に公表した。

なお、外科専門医制度規則第 59 条により、特例措置は平成 14 年度から行われてきたが、本年度をもって終了とした。

4. 平成 22 年度外科専門医更新認定業務について

例年通り取得から 5 年が経過した外科専門医の更新認定業務を行った。本年度の対象者は平成 17 年度に取得した 1,876 名であった。対象者のうち、1,741 名からの申請があったが、そのうち 10 名がオンラインによる申請登録は行ったが、申請書そのものを提出しなかった。したがって、審査対象者は 1,731 名であった。

9 月 7 日の委員会で審議を行った結果、研修実績が不足している理由から 5 名を不合格とし、1,726 名の

更新を認めた。本年度合格者氏名は、雑誌第 111 巻第 6 号に公表した。

5. 平成 22 年度外科専門医特例更新業務について

本年度の対象者は 185 名（平成 20 年度失効：92 名，平成 21 年度失効：93 名）であった。対象者のうち 26 名（平成 20 年度：15 名，平成 21 年度：11 名）から申請があった。

9 月 7 日の委員会で審議を行った結果，研修実績が不足している理由から 1 名（平成 20 年度失効者）を不合格とし，25 名の特例更新を認めた。本年度合格者氏名は，雑誌第 111 巻第 6 号に公表した。

なお，特例更新は外科専門医制度施行規定第 55 条第 4 項により，平成 25 年度まで実施する。

6. 平成 22 年度認定登録医暫定登録業務について

旧来の本会認定医が研修実績（30 単位）を満たすことにより認定登録医に移行できる暫定登録業務を実施した。550 名からの申請があった。

9 月 7 日の委員会で審議を行った結果，550 名全員の登録を認めた。本年度登録者氏名は，雑誌第 111 巻第 6 号に公表した。

なお，暫定登録は外科専門医制度規則第 52 条第 1 項により，平成 24 年度まで実施する。

7. 日程について

今年の日程，および会場は以下のとおりである。

- ・ 予備試験（筆記試験）…日時：8 月 28 日（日）
会場：大阪国際会議場（大阪市北区）
- ・ 認定試験（面接試験）…日時：11 月 6 日（日）
会場：京王プラザホテル（東京都新宿区）

8. その他

本年 8 月開催の第 44 回万国外科学会（於：横浜市）の出席を，外科専門医制度における研修実績として認めることとした（5 単位）。

5. 指定施設指定委員会・指導医選定委員会

委員長 前田 耕太郎

1. 平成 22 年度指定施設指定業務について

本年度も 7 月中旬に雑誌ならびにホームページを通じ，指定施設および関連施設の申請手続きを行うように，オンラインを介して通知した。また，指定期間中の指定施設に対しては，同様にオンラインを介して年次報告を行うように通知した。8 月 31 日に申請を締め切ったところ，指定施設として 91 施設，関連施設として 891 施設の申請があった。

所定の手続きを経て，11 月 12 日に委員会を開催し，指定施設基準に準拠して慎重かつ公正に審議を行ったところ，指定施設として申請されたが条件を満たさなかった 1 施設を関連施設として指定し，また，関連施設として申請されたが指導責任者（有資格者）不在であった 5 施設を不可と判定した。結果，指定施設として 90 施設，関連施設として 886 施設を指定した。指定施設の指定期間は平成 23 年 1 月 1 日から平成 25 年 12 月末日まで，関連施設の指定期間は平成 23 年 1 月 1 日から同年 12 月末日までである。なお，この結果は理事会で承認されたので，雑誌第 112 巻第 1 号に公表し，それぞれ本会外科専門医制度修練施設証，外科専門医制度関連施設証を交付して，各施設長宛に送付した。

したがって，現指定施設数 1,267 施設，現関連施設数 886 施設である（平成 23 年 2 月 28 日現在；条件を満たせば，指定施設から関連施設への移行は随時認めている）。

本年12月末日で指定期限切れとなる施設に対しては、7月中に文書および雑誌ならびにホームページなどを通じて、指定施設もしくは関連施設の更新手続きを行うよう通知する予定である。同じく、指定期間中の指定施設に対しては、年次報告を行うよう通知する予定である。

2. 平成22年度指導医選定業務について

8月2日に申請を締め切ったところ、323名からの申請があった。このうち4名から申請取り下げの申し出があり、1名がオンラインによる申請登録は行ったが、申請書そのものを提出しなかった。したがって、審査対象者は318名であった。所定の手続きを経て、11月12日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、業績の条件を満たしていなかった3名と修練施設勤務期間が不足していた10名を不合格とし、305名を合格と判定した。この結果は理事会で承認されたので、合格者氏名は雑誌第112巻第1号に公表した。

3. 平成22年度指導医更新選定業務について

例年通り取得から5年が経過した指導医の更新選定業務を行った。本年度の対象者は平成17年度に新規選定により取得、または更新選定により取得した1,364名であった。選定申請と同じく8月2日に申請を締め切ったところ、964名からの申請があった。このうち26名から申請取り下げの申し出があり、24名がオンラインによる申請登録は行ったが、申請書そのものを提出しなかった。したがって、審査対象者は914名であった。所定の手続きを経て、11月12日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、業績の条件を満たしていなかった11名を不合格とし、903名を合格と判定した。この結果は理事会で承認されたので、合格者氏名は雑誌第112巻第1号に公表した。

4. その他

指定施設：社団法人日本専門医制評価・認定機構の依頼を受け、研修施設調査に協力した。

指導医：指導医選定のための業績（＝論文）は、外科学に関する内容であることを基準の一つとしているが、今後は腫瘍学や化学療法などに関する内容であっても、本会の雑誌や定期学術集会などで採用されるようなレベルであれば認めることとした。

6. 医学用語委員会

委員長 高見 博

1. 外科学用語集について

日本外科学会は2003年5月に過去に発刊してきた「外科的手術用語集」「外科的疾患用語集」「外科略語集」を1冊にまとめ「外科学用語集」（金原出版株式会社）を発刊しており、収録された用語数は英和約7,800語、和英約8,500語、略語約1,600語にのぼる。産婦人科、整形外科、形成外科など周辺領域の用語も取り入れている。

2. 外科学用語集 Web版について

本学会ホームページにて外科学用語集のWeb版を公開している。

利用状況は、毎月平均で1,400件程度のアクセスがあり、一人あたり平均8ページを閲覧している。

3. 日本医学用語辞典について

本委員会では、日本医学会より発刊されている「日本医学用語辞典」の編集も関与し、用語のチェックも行っている。